

日本保健医療社会学会ニュースレター (No. 104) 2017/05/12

目次

1. 学会総会・園田賞（学会奨励賞）授賞式のご案内
2. 学会長からのご挨拶——この2カ年をふり返って
3. 2016年度第4回理事会報告
4. 第44回大会の準備状況
5. 次期役員選挙結果
6. 編集委員会報告
7. 定例研究会の報告（関東）
8. 定例研究会の報告（関西）
9. 看護・ケア研究部会報告
10. 渉外・国際交流活動報告
11. 会員の皆様へのお願い
12. 編集後記

1. 学会総会・園田賞（学会奨励賞）授賞式、第43回大会のご案内

5月20日、21日に開催される第43回大会におきまして、本学会の総会および園田賞（学会奨励賞）の授賞式を開催いたしますので、会員の皆様はぜひご出席ください。

日時：2017年5月21日（日）13:00-14:00

場所：佛教大学二条キャンパス 7階701教室

議題：2016年度会計・事業報告、2017年度事業計画案・予算案

園田賞受賞者：野島那津子

受賞論文演題：診断のパラドックス -筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群及び線維筋痛症を患う人々における診断の効果と限界

なお第43回大会のプログラムに変更がございますので、大会WEBサイトをご確認ください。

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2017/>

（清水理事：総務担当）

2. 学会長からのご挨拶——この2カ年をふり返って

2015年5月の首都大学東京大会の総会で会長に就任してから2カ年が過ぎようとしています。会長就任以前から大会長として2016年度の大会を追手門学院大学で開催することを内諾しており、それに先だって学会長という重職を担うことは、大会運営上も多難が予想されましたが、理事の先生方ははじめ評議員、会員諸氏のご支援によって、無事、大会を開催することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

今期の理事会の課題のひとつは、より堅固な財政構造の確立でした。前期理事会からは、近い将来の会費値下げなどが提案されましたが、今期はそのような改革は行わず、繰越金の増額積み上げをめざしました。私には2011年の学会誌編集委員長就任直後に財政難から非会員の寄稿者に原稿のページ数縮減をお願いした苦い経験がありましたので、学会財政の安定化をはか

ることの重要性が身にしみてきました。第42回大会運営においてもっとも神経を使ったのもこの点でした。この課題は、次期理事会にも引き継ぎます。

もうひとつの重要な課題は、大会開催の大会校側の負担軽減のための研究活動委員会の設置でした。今度の第43回佛教大学大会の運営に委員会として理事が関与し、準備にあたっています。しかし、大会校と研究活動委員会との役割分担等については、まだまだ検討の余地がありますので、次期理事会には委員会メンバーの数や人選その他、よりいっそうの緊密な協力体制を確立できるようお願いすることにしています。

また、昨年5月には、科研費の審査区分の変更に際し、評議員はじめ会員諸氏のご協力のもと学会として意見を出し、小区分「社会学」のキーワードに「医療社会学」、「保健医療福祉」を入れることが出来ました。私たちの意見が全面的に認められたわけではありませんでしたが、学会として一丸となって対外的対応を行うことの必要性を実感する機会となりました。これからもますます当学会のプレゼンスを高める場面が出てくると思いますので、会員諸氏のご協力をお願いしたいところです。

その他、時勢にあわせ個人情報保護規定および特定個人情報取扱規程の制定も行いました。

次期理事会には、周年記念事業の実行も含め、多くの事項を引き継ぎます。さいわいなことに次期理事会は今期から引き続いて理事に就任される方が多く、現状の的確な把握が望めます。実行に移せなかった課題の遂行・解決に加え、大会開催校の引き受けにつきましても、会員のみなさまの今後のさらなるご支援をお願いする次第です。

(蘭会長)

3. 2016年度第4回理事会報告

日時：2017年3月23日（木） 12時～15時

会場：(株)国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室

出席者：蘭会長、清水理事、石川理事、伊藤理事、進藤理事、田代理事

事務局 平野（記 国際文献社）

欠席者：樺田理事、細田理事、中山理事、西村理事

1. 第43回大会の準備・進捗状況について（進藤）

進藤理事より資料添付次第の通り、大会スケジュールと抄録集の奥付について説明があった。

理事会、編集委員会、評議員会の記載や、抄録集の奥付の発行者や発行日について審議した。

また、一般演題において辞退があり、抄録集からも削除したとの報告があった。

2. 2017年度大会時評議員会の議題について（蘭）

蘭会長より資料添付次第の通り、評議員会の議題について説明があった。

評議員にRTDの採択、査読を依頼するとの提案があったが、より多くの演題を採択する為、依頼しない方が良いとの意見があり議題から削除することとした。

園田基金の使用状況等を報告しつつ、主に2018年度の学会30周年記念企画についての意見聴取を行うこととした。

3. 第44回大会開催日程・準備について（蘭・細田）

蘭会長より前回理事会で準備を始めたことが伝えられたが、細田次期大会長が欠席の為、詳

細は次回理事会にて報告してもらうこととした。

4. 園田賞（学会奨励賞）候補について（中山）

中山選考委員長の代理として田代理より園田賞受賞者の候補について説明があり、論文の完成度が高いことから野島那津子会員が推薦され、承認された。

5. 次期役員選挙結果について（蘭・清水）

清水総務理事より資料添付次第の通り、選挙結果の報告があった。蘭会長より理事の上位7名に就任依頼をし、全員から承諾を得られたことが伝えられた。2017年4月8日に蘭会長、清水総務理事と新理事で会合を開き、会長と指名理事3名の選出などが行う予定である。

監事については投票1位の朝倉隆司会員に就任依頼をし、承諾されたとの報告があった。もう1名は同順位の為、理事会にて野口裕二会員を次点とすることが決定した。後日、蘭会長から野口会員へ監事の就任依頼を行うこととした。

6. 次期評議員選定について（清水）

清水総務理事より次期評議員候補者の確認を行った。現状では評議員でない会員が理事に選出されることがあるため、学会運営の大まかな流れを知るためにも、今後理事に選出される可能性がある会員（役員選挙で投票数が多い人）を評議員として選出したいとの意見があった。

また、非理事の委員会委員は評議員から外れることから、委員会メンバーが決定する4月以降に候補者を選出することとし、後日理事メーリングリストで選出したい人を確認することとした。

7. ニューズレター104号の配信について（清水）

清水総務理事より第43回大会の最終案内を兼ねる為、ゴールデンウィーク明けに発行することが伝えられた。その為、4月14日頃を原稿締切とすることとした。

8. 編集委員会報告（樋田・石川）

石川理事より資料添付次第の通り、学会誌の発刊予定、web公開について報告があった。論集1号から9号のweb公開について当初は掲載費用がかからない学会のホームページに掲載する予定だったが、園田基金を活用しj-stageへの掲載を検討することとした。

9. 定例研究会の報告（関東）（田代・中山・西村）

田代理より、3月5日に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて定例研究会が開催され、広報不足で参加人数が少なかったとの報告があった。また、秋葉原サテライトキャンパスのビル入り口から会場までが分かり辛いことから、今後は当日の案内について検討する必要があることが伝えられた。

10. 定例研究会の報告（関西）（進藤・伊藤）

進藤理事より、3月25日に大阪市立大学梅田キャンパスにて定例研究会を開催することが伝えられた。集客が難しいことから、理事会終了後に案内メールを配信することになった。

11. 看護・ケア研究部会報告（西村）

西村理事が欠席の為、次回理事会にて報告する。

12. 渉外・国際交流活動の報告（細田）

細田理事の代理として蘭会長より資料添付次第の通り、コンソーシアム評議員会について報告があった。コンソーシアム通信とニュースレターについては理事メーリングリストで共有することとなった。

13. 2016年度決算案及び来年度予算案について（清水）

清水総務理事より資料添付次第の通り、2016年度決算案と2017年度予算案について報告があった。決算案では会費収入増の理由として新入会者が多かったこと、予算額より多かった支出として学会誌のページ数が増えた印刷製本費とJ-Stageの掲載費用が増えたことが報告された。

予算案については基本的には前年度実績で作成し、新規追加事項として一般会計部分では大会抄録編集費用を計上したこと、園田基金部分では大会時の特別講演講師招聘費を計上した。また、議題8にある通り論集1号から9号のJ-stageの掲載費用を計上することとした。

14. 再入会者の扱いについて（清水）

清水総務理事より再入会者の扱いについて、以前に理事メーリングリストで審議した通り、会費未納による資格停止退会者の再入会の場合には、滞納分を清算することで会員継続を認めることが提案され、承認された。

15. 日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について（清水）

清水総務理事より、日本学術振興会から日本学術振興会賞と育志賞の候補者推薦依頼があつたことが伝えられた。学術振興会賞については対象者を選出するのが困難なため、対応はしないこととなった。育志賞については、園田賞受賞者で大学院生である場合は推薦しても良いとの意見があつた。

16. 次期理事会への引き継ぎ事項について

蘭会長より資料添付次第の通り引継ぎ事項が伝えられ、評議員の選出について追加し次回理事会までに引き継ぎ書を仕上げることとした。

17. 入退会者の承認（清水）

清水総務理事より新入会者12名の承認依頼があり、承認された。また、資格停止退会予定者、退会者の報告があつた。

以上

4. 第44回大会の準備状況

2017年度の総会での審議事項であり、そこでの承認を経ての正式な決定となります。そして第4回理事会報告でも触れられておりますが、2018年度の第44回大会については細田満和子会員（星槎大学副学長）を大会長とし、会場は星槎道都大学（北海道北広島市）で開催する

方向で、内諾を得ていることをお知らせいたします。また、第45回大会については、中村美鈴会員（自治医科大学 教授）に大会長を引き受けさせていただけるとの内諾を得ております。

(蘭会長)

5. 次期役員選挙結果

戸ヶ里泰典、中村英代の両会員を選挙管理委員として、2015-2016 年度日本保健医療社会学会役員選挙が 2017 年 2 月に実施されました。選挙は 2017 年 1 月 15 日に告示、2017 年 2 月上旬に投票用紙などを送付し、同月 28 日締め切り、3 月 9 日に開票されました。理事会からは清水理事が立ち会いました。有権者数は 430 名、理事選挙の有効数は 82、無効数 1、監事選挙の有効数 82、無効数 1 でした。

開票結果は、即日に蘭会長に報告され、理事に関しては、第 1 位から第 7 位の得票者に会長より当選の報告をしました。監事に関しては、第 2 位が同票で 7 名であったため、「役員選出に関する内規」に従って、3 月 23 日開催の理事会にて順位を付け、第 2 位の順位となった当選者に当選の報告を行いました。

以上の結果をまとめると、以下のようになります

理事選挙結果（敬称略、得票順、同数の場合は五十音順）

順位	氏名	票数
1	田代 志門	22
2	西村 ユミ	19
3	櫻田 美雄	18
4	朝倉 京子	17
5	石川 ひろの	16
6	伊藤 美樹子	16
7	林 千冬	16
次点	三井 さよ	15

監事選挙結果（敬称略、得票順、同数の場合は理事会での順位順）

順位	氏名	票数
1	朝倉 隆司	15
2	野口 裕二	7
次点	蘭 由岐子	7

(清水理事：総務担当)

6. 編集委員会報告

1) 2017 年度第 1 回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の概要

4 月 15 日（土）に、国際文献社会議室において、編集委員会を開催し、以下を審議決定した。

① 2017 年 3 月末締切投稿論文について

2017 年 3 月末締切では、14 本の投稿論文（原著 11 本、研究ノート 3 本）が提出された。各論

文に付き、各3名の査読者（3名中1名は査読者候補）を決定した。

② 『論集』第28巻1号の編集について

第28巻1号の掲載予定原稿と状況を確認した。特集5本、書評特集（書評論文・リプライ）3組、書評6本を掲載する予定である。

③ 次期編集委員会への引き継ぎ事項

事前に配信されていた、樋田委員長作成の「機関誌編集委員会申し合わせと申し送り」資料を確認し、次期への引継ぎとすることとした。

この資料以外に、30周年企画&30巻企画の案として、福祉社会学会の10周年記念を参考に、対談やインタビュー記事掲載などの可能性がありうる旨の提案があった。また、30周年企画でシンポジウムが開催されるならば、その特集を組むことも考えられるという議論があった。

④ 遅れて提出された改訂投稿原稿の取り扱いについて

改稿投稿が遅れて提出されたことがあったため、対応につき意見交換を行った。査読者の記憶がなくなってしまう場合もあるため、理由のない遅れは認めないことを確認した。また、理由があつても遅れないようにしてほしいことを編集委員会として広報していくこととした。

2) 予算関係について

書評用予算（2万円／年）については、予算年度が3月末締めであることと、旧委員会が最後の書評書の選定を行うのが、4月中旬であることとの間に、時期的ズレの問題があるため、使い残し金額を翌年度予算に繰り越せるよう、制度整備を計ることになった。

3) 次回委員会について

次回編集委員会は、新旧合同委員会とし、5月20日午後に、佛教大学にて開催する。

7. 定例研究会の報告（関東）

2016年度第2回定例研究会（関東）

テーマ：「社会による健康被害」への社会学的アプローチの可能性

日 時：2017年3月5日（日）14:00-17:00

場 所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス 会議室A・B

報告者：宇田和子（福岡工業大学社会環境学部）

指定発言：本郷正武（和歌山県立医科大学）

花井十伍（ネットワーク医療と人権）.

司 会：田代志門（国立がん研究センター）

2015年に『食品公害と被害者救済：カネミ油症事件の被害と政策過程』を出版された新進気鋭の環境社会学者・宇田和子会員から、「食品公害による被害と補償問題」と題した報告が行われた。報告では油症被害の実態と被害に対する補償の状況を踏まえ、不十分な補償が継続している理由や現在の争点についての考察が展開され、最後に社会学の立場からの提言と今後の展望が示された。これに対して、本郷会員からは食品公害における研究者集団や医療従事者の役割や油症被害者が被害者に「なる」プロセスに着目したコメントが、花井氏からは薬害被害との異同についてのコメントがあった。宇田会員からのリプライの後、17名の参加者との質疑応答、自由討議が行われ、「社会による健康被害」への社会学的アプローチの可能性について活発な議論が行われた。

（田代理事：研究活動担当）

8. 定例研究会の報告（関西）

2016年度第2回定例研究会（関西）

日 時：2017年3月25日（土） 14:40～17:00

（若手研究者支援企画に引き続き開催）

場 所：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター

（大阪駅前第2ビル6階小会議 <https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/university/access>）

テーマ：「薬物事後統制の経験的分析に向けた方法論的検討」

講 師：平井秀幸（四天王寺大学）

司 会：進藤雄三（大阪市立大学）

概要：今回の関西定例研究会は、『刑務所処遇の社会学：認知行動療法・新自由主義的規律・統治性』(2015:世織書房)を上梓した、平井秀幸先生に登壇いただいた。今回の報告は、日本における薬物統制原則が「事前統制」を中心になされてきたことを踏まえつつ、「事後統制」の動態をも射程に入れた分析の可能性をさぐるために、時間軸を組み入れた歴史社会学的分析の重要性を指摘し、その上でとりわけ研究蓄積の厚い「医療化」の検討を、「薬物事後統制」の経験的分析枠組み構築のために行う、という野心的な試みであった。

既存の「医療化」研究の概観を行った上で、その問題点を指摘し、その指摘に対応する分析枠組みを提示する、というきわめて論理的な提示がなされていた。報告の目的とされた分析枠組み提示のインパクトもさりながら、良質の博士論文の先行研究レビューを手渡されたかに思われた「医療化」の濃密なオーバービューの、その詳細さと問題点剔出の的確さには正直うならされた。参加者数は15名で、報告後にきわめて活発な議論が交わされた。

（進藤理事・伊藤理事：研究活動担当）

9. 看護・ケア研究部会報告と案内

1) 看護・ケア研究部会 3月定例会のご報告

日 時：3月18日（土）14:00～16:00

場 所：首都大学東京荒川キャンパス 校舎棟364教室

発表者：西村ユミさん（首都大学東京）

発表テーマ：「遺伝性疾患をもつ家族の経験

——親から子への生体腎移植という選択」

要旨：常染色体優性多発性囊胞腎（ADPKD）は、1980年代に遺伝性疾患であることが分かり、1990年代中ごろに原因遺伝子が特定された、主に成人期に発症する疾患である。本研究では、このADPKDを患う家族に注目し、ADPKDによって腎機能が低下した子どもが父親から生体腎移植を受けた経験がいかに成り立っているのかを探究した。なお、ADPKDに罹患しているのは母親と子どもであった。移植に関わる経験は、複数回の非構造化インタビューによって聴き取った。本研究の実施にあたっては、研究倫理委員会の承認を得た。移植の経験の成り立ちは、1) 移植を始める、2) 主人の気持ちへの配慮、3) 本人の意思——透析は嫌、4) 家族のスタイル——移植の相談と病名の告知の4テーマを柱に、記述した。いずれもこの家族固有の経験であるが、諸条件や諸状況の積み重なりによって成り立った「家族のスタイル」がこの家族の病い経験、とりわけ移植への経過を支えていたことが見出された。この条件と状況の積み重なりという視点は、他の家族にとっても参照できる結果であると考える。

2) 2017度総会のご案内

2017年度 看護・ケア研究部会総会を開催します。会員の方、ご入会希望の方はぜひご参加ください。

日時：2017年5月21日（日）12:00～12:50

場所：佛教大学 二条キャンパス 会場6（2階小会議場 211）

議題：2016年度会計報告、2017年度活動計画案等

3) 看護・ケア研究部会に関する問い合わせ先

看護・ケア研究部会へのお問い合わせ、入会希望者のご紹介などは、庶務までご連絡ください。メールまたは郵送・FAXで入会案内をお送りいたします。例会見学も随時受け付けております。

日本保健医療社会学会 看護・ケア研究部会 2016-2017年度役員

会長・中村美鈴、副会長・朝倉京子、会計・松繁卓哉、庶務・白瀬由美香（事務局）

e-mail: y.shirase_at_r.hit-u.ac.jp（看護・ケア研究部会事務局：_at_は半角@にしてください）

（西村理事：研究活動担当）

10. 渉外・国際交流活動報告

国際社会学会（ISA: International Sociological Association）トロント大会（2018年7月15日から21日）の口頭発表の演題が募集され、抄録提出が始まっています。抄録提出期間は、2017年4月25日から9月30日です。ぜひ多くの皆様に応募していただければと思います。

<http://www.isa-sociology.org/en/conferences/world-congress/toronto-2018/>

（細田理事：渉外・国際交流担当）

11. 会員の皆様へのお願い

・過去の学会活動の情報提供のお願い

学会の誕生からの30周年を控え、過去の学会の活動等の資料を収集・ホームページへの公表を継続的に行いたいと考えております。現在のところ、2001年以前および47号、48号、76号のニュースレターが欠なっており、過去の資料をお持ちの会員がおられましたら、学会事務局までご連絡をお願いいたします。

・会員の生年月日や専門分野等の情報提供のお願い

本学会では入会時に氏名、性別、生年月日、専門分野などを登録していただいているが、すでに会員となられている方については、生年月日や専門分野などの情報が登録されていない方が多くおられます。今後の学会運営や論文の査読者や名誉会員の選考等に必要な情報となりますので、ぜひ「会員情報変更届」をお使いいただき、学会事務局までご登録をお願いいたします。http://square.umin.ac.jp/medsocio/box/members_henkou.doc

本学会では個人情報保護規程を策定し、個人情報の適切な利用と保護に留意しておりますので、ぜひご協力を願いいたします。

（清水理事：総務担当）

12. 編集後記

- ・日本保健医療社会学会ニュースレターは第92号からはpdfファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題があ

る場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局（下記）まで御連絡ください

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

(清水理事：総務担当)

発行：日本保健医療社会学会

編集：総務担当（清水準一）

学会事務局：

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp TEL : 03(5389)0237

※5月12日に会員向けに配信した版に微細な訂正を加えている。